

西富岡・向畑遺跡名

(伊勢原市No.160 遺跡)

調査期間 20070403～継続中

所在地 伊勢原市西富岡

時代

旧石器
縄文
奈良・平安
中・近世

作成日:20090612

概要

西富岡・向畑遺跡は、中日本高速道路株式会社による第二東名高速道路建設に伴う事前調査として、2007年4月から発掘調査を実施しています。

遺跡は、富岡丘陵の西側から南側にかけて南北約2kmわたって広がる遺物散布地として知られています。現在行っている発掘調査は、遺跡の中でも緩やかに傾斜した丘陵の西斜面を対象として行っており、旧石器時代、縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世の遺構・遺物が見つっています。

中世の遺構は、17軒の竪穴状遺構や10軒の掘立柱建物跡、5基の地下式坑などが見つっています。9区2号竪穴状遺構から、焼土が一面に広がって見つかり、火事になったものと思われます。焼土上からは、炭化した柿や釘などが見つっています。

古墳時代から奈良・平安時代の遺構は、58軒の竪穴式住居と10軒の掘立柱建物跡が見つっています。5区30号竪穴住居跡からは、銅に銀鍍金(ぎんときん)を施した耳環(じかん)が1点見つっています。

縄文時代の遺構は、敷石住居址や竪穴式住居址・水場遺構・埋甕・土坑・集石・配石が見つっています。主に縄文時代後期の遺構が中心です。1区の水場遺構は、谷底で見つ



▲1区 水場遺構



▲5区 J2号敷石住居址

かっています。杭や土坑、堅果(けんか)類が見つかっています。堅果類のほとんどはクルミで、割られた状態で見つかっています。

旧石器時代の遺構は、礫群や石器製作跡などが見つかっています。